

会 議 録

会議名	平成 26 年度第 4 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 27 年 2 月 24 日(火)午後 6 時 30 分～9 時 00 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	小野一之、大村のり子、柿崎博孝、佐藤栄子、佐藤一、田野倉宏和、 藤岡換太郎、本田怜子、山中幸生、吉田幸子、 (50 音順)
	事務局	牛山清志こども科学館長、田島巨樹郷土資料館長 (文化財課長)、森融こども科学館専門幹兼主査、戸井晴夫郷土資料館担当主査、中村善行郷土資料館担当主査
欠席者	なし	
議 題	協議事項 1. 特別展「宇津木向原発掘 50 周年」について 2. 平成 26 年度八王子市こども科学館及び八王子市郷土資料館 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月分) 事業実施状況について 3. その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	会議次第 平成 26 年度 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月分) こども科学館事業実施状況 平成 26 年度 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月分) 郷土資料館事業実施状況	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>郷土資料館で平成 27 年 1 月 27 日～3 月 22 日開催中の特別展「宇津木向原発掘 50 周年」について、1 階特別展示室に委員全員が移動して八王子市郷土資料館戸井主査による展示説明。</p> <p>終了後、2 階集会室に再度移動し八王子市こども科学館の 4 月～1 月分事業実施状況について森こども科学館専門幹兼主査、八王子市郷土資料館の 4 月～1 月分事業実施状況について八王子市郷土資料館中村主査から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 さまざまな事業を展開していますが両館ともなかなか入館者数に反映されていないのが現状だと思います。両館とも力はあると思いますので、なんとか入館者増につながるようにわれわれも含めて知恵を出し合っていきたいと思います。みなさんからご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>大村委員 こども科学館の職場体験での中学生受け入れについて質問ですが、この中で中学生はどんなことをしていますか。また中学生から寄せられた感想があればお聞きしたいのですが。</p> <p>森専門幹兼主査 こども科学館の業務を来館者から見える部分と見えない部分に分けた簡単な一覧表を作りまして、どの部分の仕事なのかをわかりやすくして工作室で下準備などをしてもらっています。児童に配付する毎月の催し物チラシを市役所にあります小・中学校の交換箱まで搬入する仕事をやってもらい、辛かったという感想をもらっています。また、プラネタリウムを直接動かすことも体験してもらっています。</p> <p>大村委員 あまり来館者の前に出るようなことはしないのですか。</p> <p>森専門幹兼主査 出てもらいたいと思っていますが、職場体験が平日になるので来館者があまり来ない時になります。ただ南多摩中学校の生徒を受け入れる際は夏休み期間中なので券売機のご案内や工作教室と一緒にしてもらったりしています。職場体験の受け入れは入館者の多い土・日曜日にしたいとは思っていますが、学校のスケジュール的に難しい状況です。</p> <p>小野会長 職場体験の学生はこども科学館を希望して来館するのですか。</p> <p>森専門幹兼主査 中学校では生徒から第 3 希望まで希望をとっているそうです。関係者に話を聞いた限りでは希望が通るかどうかは半々だそうです。女子の間では保育園の人気が高いそうです。</p>
-----------------------	--

	<p>小野会長 希望する学校は決まっているのですか。</p> <p>森専門幹兼主査 こども科学館の受け入れは9月に集中しており、毎年決まった学校から申し込みがあります。受け入れ期間は3日間が中心です。</p> <p>柿崎委員 こども科学館・郷土資料館とも入館者の分析が必要だと思います。リピーターについてはどれくらい把握されていますか。</p> <p>森専門幹兼主査 数字としては正確に把握しておりません。来館者とお話していると以前に工作教室に参加したことが分かったり、プラネタリウムの番組プログラムが変わるとリピーターは増える傾向にあります。</p> <p>戸井主査 郷土資料館も正確な数字について把握しておりません。特別展など展示の際には来館者アンケートを実施してしましてその中に「来館何回目ですか」という項目があります。その箇所を確認してみますとリピーターの方が多く、初めて来館される方は少ない傾向にあります。</p> <p>柿崎委員 両館で事業を実施される際はリピーターの動向が重要だと思いますのでできるだけ調べて今後に活かしていただきたいと思います。</p> <p>山中委員 こども科学館の講座を見ていまして、参加人数が多いのは「観るもの」だと思います。工作教室ですと1回50人も参加者がいるので実施するのは大変なのではないでしょうか。東京大学サイエンスコミュニケーションサークルが参加していますね。</p> <p>森専門幹兼主査 地下の科学工作教室は36人収容で、2階の講座室は約80人を収容できます。夏休みに実施するイベントの実施時間は1時間です。</p> <p>山中委員 工作室は36人ということですが、講師の方はどのような形で関わっているのでしょうか。</p> <p>森専門幹兼主査 講師1人と補助講師1人です。講師を務めているのはこども科学館の職員で科学指導員です。2階の講座室で実施するものにつきましては主に私が担当しています。あとは博物館実習生や職場体験の生徒に補助に入ってもらうこともあります。</p> <p>山中委員 教えることも勉強ですし、公共の場で教えることは大学生にとっていい経験になると思いますが声をかけることはしないのでしょうか。</p>
--	--

森専門幹兼主査 芸術系の大学にはまだ声をかけておりません。東京大学の学生につきましては、本館のプラネタリウムの投影委託をお願いしている会社の方が連れてきてくれたものです。

佐藤栄委員 先日こども科学館を訪問してプラネタリウムやおもしろ電池実験ショーを見学させていただきました。訪問したのが今月でしたので今回の報告には入っていないと思いますが物理的原理を取り上げていて夫が夢中になって取り組んでいました。おもしろ電池実験ショーに参加している子どもを見るととても集中して興味をもって参加していて実施後のアンケートを見せてもらいましたら実験ショーのレシピもきちんとしていて一生懸命に教えてくれていました。ただ何を教えるかについて目的は持って一方的に教えようという熱意を感じたものの通電する面白さを感じてもなぜ通電するかという過程について自分で考えることが大事だと思うんですね。先生が出した答えを暗記するのではなくて正解は出なくても自分で考えることが大事だと思います。藤岡委員の書かれた本にも全編を通してそういった内容が出てくるので意を強くしました。私は会場でどうして砂糖水は通電しないのか質問しました。講師の方の回答はマイナスイオンとプラスイオンは砂糖の原子が大きくて分解できないから通電しないとのことでした。それでも理解できなかったので帰宅してから夫に質問しました。こういったことを子どもに説明するのは無理ではないかと尋ねたところ模型を使えば説明できるとのことでした。子どもが分からなくてもいいから講師からどうして通電しないのか問いかけすることがあってもよかったのではないかと思いました。その時に教育について感じたことをみなさんにお伝えしようと思いました。参加者は全員夢中になって大人も子どもも一緒になって取り組んでいてすごいことだと思います。こういった内容のことは入館者数等の実績には表れてこないから難しいことだとは思いますが、理想の姿かもしれません。

それから、実験では成功だけを見せるのではなく、失敗もして見せる。そうすることで「なぜこうなるのだろう？」という気持ちになるので失敗して見せることも大切なことだと思います。

牛山館長 おっしゃることはとても大事なことだと思います。

	<p>本田委員 佐藤一委員から前回の会議で入館者数について調査報告された際にも出ていましたが、両館とも入館者数減の流れをどうやって止めるかが課題だと思います。私も含めて市民の方は以前からこども科学館という名称だったのでどうしても子どもを対象にしているというイメージが強いと思いますが、入館者数を増やすことを考えるともっと大人が来館して楽しめる場所にしていくこと、大人を対象にしたイベントや講演会を実施していけばいいと思います。現にプラネタリウム「銀河鉄道の夜」を見ますと池袋のサンシャインシティのプラネタリウムで上映している内容と同じですが、池袋では大人が多く、子どもは少ない状況になっています。もっと大人も来館できるということをアピールすべきだと思います。そうすれば全体の入館者数も増えると思います。ぜひとも大人だけを対象にしたイベントをやっていただけたらと思います。</p> <p>佐藤栄委員 私もプラネタリウム「銀河鉄道の夜」にととても感動しました。もっと宣伝すれば来館者も増えるし、前回プラネタリウムに行った際は空席も結構あったのもったいないと思います。</p> <p>本田委員 難しいかもしれませんが、広報はちおうじで案内する時に対象を大人と明記することで増えると思います。</p> <p>小野会長 今、本田委員がおっしゃったことは大事なことです。前々から言っていますがこども科学館は大人の入館者を増やすこと、逆を言えば郷土資料館は子どもを増やすにはどうすればいいかが課題ですからこの課題を克服することで前進するのではないのでしょうか。今回プラネタリウム「銀河鉄道の夜」の件で大人にひとりでも多くの方に見てもらいたいというのがあります。私も他のプラネタリウムにひとりで行くことがあります。周りは子ども連れのお母さんばかりですのでひとりでは行きづらい雰囲気というのがあります。おひとり様大歓迎という雰囲気作りをしてもらえるといいですね。</p> <p>ネーミングライツでこども科学館のイメージも大人っぽいイメージもできたことですから。</p> <p>藤岡委員 たとえば BBC の番組はプラネタリウムで放映できないのですか。</p> <p>森専門幹兼主査 以前 BBC の恐竜の番組をやっていました。内容は完全な科学ものではなくある博士がタイムスリップして現代に恐</p>
--	--

	<p>竜を連れてくるというものでしたが、恐竜ものは人気があるのでお客さんは来てくれました。著作権の問題もあるので全部持って来ることはできません。</p> <p>藤岡委員 こども科学館の報告資料を読みますと子供向けが多く、大人向けの科学番組例えば「ヘイエルダールのコンティキ号の冒険」みたいなものがあれば大人ひとりでも来館することができる。逆に郷土資料館の方は図録を見ると専門家向けに作ってしまうので子どもにもわかるものを作ってはどうでしょうか。登呂遺跡等に行きますと弥生時代の家に入ることができたり火おこしをやっていると思いますが、もっと積極的に子ども向けに分かるようにする。また縄文と弥生の時代の境界は分からないでしようがなんとなくでも分かるような切り口があってもいいような気がします。</p> <p>もうひとつ、以前にも言った気がするのですが実施状況は「パーセント」表示で出した方がいいと思います。そして開催日は1日というケースが多いのもっと日数を増やすことで入館者も増えると思います。例えば『体験学習！化学実験 157人』とありますが、特別展の人気が高いのであれば開催日数を増やしてみてもどうでしょうか。</p> <p>佐藤一委員 こども科学館の資料を昨日から今日にかけてひとつお見直してみたのですが、内容が書かれているものもあれば、単に名称だけで内容がわからないものもあるので表記の仕方を統一すべきです。そうすることで分析もしやすくなります。例えば工作体験ということでまとめれば具体的な内容を掴むことができます。もうひとつ、特別展については郷土資料館の資料と同じように項目を独立させるべきです。同じように観察会もまとめることができますし、分野別に分けてまとめることで表として見やすく、そしてわかりやすくなります。表の作り方でせつかくの事業内容が目立たなくなってしまうのは非常にもったいないので来年度以降そのようにしていただくとデータが生きてくると思います。</p> <p>牛山館長 私たちは事業を実施する側なので内容について当然理解しているわけですが、確かにそうした立場からでないといわかりづらいものなので分野別にするようにします。</p> <p>吉田委員 教育では見ることだけで体験したという錯覚をしますので、経験を貯蓄することが大切です。先ほど特別展示室に行きま</p>
--	---

したが、奥の壁の空きスペースには年表（できれば小学校で掲示しているもの）を置いてほしいと思います。そうしたからといって見るかどうかわかりませんが、見学するにあたっての何か手がかりとして提供してほしい。隣の消防署には大きなものさしが設置されているように展示ケースの中にメジャーを入れてみるとかそういった工夫が欲しいです。学力テストが話題になっていますが2つの問題を読み設問に答えた上最終的に「あなたはどう思いましたか」で締めくくられている問題のしかたになっています。2つのものを比較する形をとってその相違や類似を明確にしてほしいと思います。「大昔には東京にもゾウがいたぞ」と来館者に問いかけるようなキャッチコピーを磨いていくことが必要です。そうすることで子どもの体験間口は広がりますし、そこから興味を持った所を伸ばしていけばいいと思います。

藤岡委員 こども科学館の浅川化石観察会は外に出ていく講座で意外と参加人数が多いですね。年々参加者が増えている印象ですがいかがですか。

森専門幹兼主査 はい。人気がとても高いです。

藤岡委員 私はこのことが非常に重要なことだと思っています。森さんがひとりでやるのは大変だと思いますが、野外に子どもを連れて行くことが重要です。他にもゾウやメタセコイヤもありますし、自然に触れることで子どもが何かを取り入れていくことが必要ですからもっとこういった事業を増やしてほしいです。

柿崎委員 ナウマンゾウの全身骨格は展示できませんか。貸し出すだけではもったいないと思います。

牛山館長 展示するだけのスペースがあればよいのですが。

吉田委員 こども科学館の階段を上がっていくところにゾウの実物大の写真を貼るといのはいかがでしょうか。また、ハチオウジゾウの発掘場所の河原の写真があると良いと思います。都心にあるコニカミノルタプラザの展示で使われていた写真をもって展示することはできないでしょうか。

小野会長 いろいろ材料はあると思うので検討をお願いします。

田野倉委員 こども科学館ですが、講座等実施状況が時系列でわかるようにまとめればどの時期にどのイベントを実施しているか確認でき、検討もできるのではないかと思うのでそういう形に

	<p>してもらいたいと思います。例えば「科学実験ショー」は実施した日が1日しかないので夏休み期間中にもう1日増やしてみてもいいのではないかと感じました。</p>
小野会長	<p>こども科学館の年間スケジュールを作成すれば利用者が一年を見通しながら科学館を楽しむことができる構想のようなものを立てられるのではないかと感じました。</p>
山中委員	<p>今回の資料は広報等で公開されているのでしょうか。資料的にもわかりづらいので一般的に見た時に色分けするとか日付を入れるとかそういった分かりやすくする工夫をしないと読み取るのが難しいと思います。もっと知ってほしいのであればキャッチコピーのように工作系・参加系・実験系に分けるようにして分かりやすいものを作っていただきたい。</p>
牛山館長	<p>確かに今ご指摘のあったとおり一般の方にとって講座についての分類は分かりづらいと思います。職員の間では「だれでもかんたん工作」・「フリー工作」・「科学工作教室」といったレギュラー講座については館内では参加費を徴収するものとそうでないものに分けている認識があります。土曜日は子ども入館料が無料なので、工作は費用をいただくフリー工作としていますが、分かりづらいと思います。</p>
山中委員	<p>プラネタリウムの集客の話ですが、池袋にあるサンシャインのプラネタリウムでは鑑賞料が1,100円になります。池袋という立地条件もあるので単純に比較できませんが八王子の学生が池袋に行ってプラネタリウムを見て帰ってくるということもあると思います。そういうケースと比較すると同じ番組をこども科学館の安い入館料で観ることができるというのはアピールポイントですね。そういう要素が埋もれないようにアピールして行ってほしいと思います。</p>
牛山館長	<p>プラネタリウムの番組で見ると「銀河鉄道の夜」については大人の方にも多くご覧いただいています。この番組の時間帯だけは客層が変わります。他の番組（ドラえもん・ポケモンを扱ったもの）ですと小学校低学年以下が多いです。</p>
山中委員	<p>大人の参加者をアピールポイントにするだけでは限界があるのでカップルやペアであれば鑑賞料を割引にするなど検討してみてもいかがでしょうか。いつも集客の問題が会議で話題になりますが無理のない範囲でアピールをしていてもらえたらと思います。</p>

	<p>森専門幹兼主査 確かに子ども科学館は子どもがいる世帯の認知度は高いですが、大人だけの世帯の認知度は高くないです。池袋サンシャインシティのプラネタリウム担当者に確認してみたところ完全にカップル向けに番組が構成されています。こちらではそこまですることは難しいです。「ノーマン」は池袋でも放映している番組だったので私も見に行きました。カップルが喜んで見ていましたが、この内容であれば家族で来館された方も楽しめると判断し、今年度実施した次第です。「銀河鉄道の夜」に次いで大人も入ってくれています。コニカミノルタの社員の方も池袋に行くより子ども科学館の方が安くていいと言って来られる方もいます。</p> <p>山中委員 それがもっと市民の間で誘い合っってということならいいのですが。</p> <p>森専門幹兼主査 大人だけの、特に年配の方の世帯に PR できれば。プラネタリウムのドーム映像は言葉では説明できないので先ほど佐藤（栄）委員もおっしゃっていただきましたが一度本物を観てもらえるといいのですが。</p> <p>佐藤（栄）委員 最近の社会を見ていますと情愛の部分が欠けているように感じます。そうした中で科学館が情緒的な事業を行なっていることを重視します。安い金額でプラネタリウムを観ることができるということもアピールポイントかもしれませんが、科学で情緒的な感性を養っていくという方法もアピールポイントになると思います。思ったとおりにいかないときれるという若者がいますが、正解以外にも答えがあることを知ることによって人間の感性が豊かになっていくように思います。</p> <p>山中委員 プラネタリウムでは半球体に映していますが、今話題になっているプロジェクションマッピングはディズニーランドのシンデレラ城などに作り込んだ映像を映していて、それらの最たるものだと考えます。プロジェクションマッピングは何を映しているか分からないけれど流行っているから行ってみようかということもあり、科学技術ですので、科学館でプロジェクションを説明するコンテンツもありかなと思います。</p> <p>大村委員 こども科学館のことですが施設の中では至る所で設備が故障している光景が見受けられます。以前からの課題だと思いますが、何か具体的な方策はありますか。ぜひこども科学館と</p>
--	--

	<p>して対応を考えてほしいと思います。実際難しいとは思いますが来館された方は残念に思っておられると思います。</p> <p>牛山館長 いつも修繕の話が出る度に恥ずかしいのでまとめて実施できるようにしておりますが予算の関係で難しいです。</p> <p>小野会長 先ほど見学しました特別展「宇津木向原発掘 50 周年」についての感想を述べたいと思います。方形周溝墓の発祥ということで取り上げられていて良かったのですが、もう少しこの遺跡については高校日本史で著名な山川出版社の教科書の表紙（口絵）部分に写真が掲載されていることについて焦点を当ててみてもよかったですかなと思います。</p> <p>10年ほど前に国立近代美術館で実施している常設展のリニューアルオープンの展示で日本の美術名画、岸田劉生の作品など教科書で見たことがある名画を美術館に行けば見ることができるというコンセプトが非常にうけました。一般的には特別展のついでに常設展を見るというケースが多いのですがこの美術館は常設展だけでもセールスポイントになったのでそういう切り口もいいのかと思いました。</p> <p>今回八王子市民はもちろんですが、教科書の高校日本史に載る宇津木向原遺跡ということでもっとアピールできないものかと思いました。内容については盛り沢山で面白かったのですがテーマが分散してしまった印象があります。焦点が考古学、郷土資料館設立の 1960 年代の熱き時代のさまざまな資料、もうひとつは弥生時代がどういう時代だったか、弥生～古墳時代に至る歴史のダイナミズムという 3 点から成り立っていると思いますが、3 点あったためにかえって分散してしまった感があります。方法については今まで他の委員のみなさんからもあったように子どもが分かる展示でなければ大人にもわからないという点を再度検討してもらいたいと思います。展示会開催については担当者も苦勞されていると思いますが 1 人に任せてしまうのではなく資料館の職員全員で感想を出し合った方がいいと思います。素人の方がかえって正当な評価ができるということもあります。内部的に企画の段階から喧々諤々と話し合いながらよりわかりやすいよい展示会にしてほしいと思います。</p> <p>佐藤（栄）委員 今回の展示を見るまで最初に遺跡を発掘する時に高校生が見つけた遺物を学校の先生の所に持ち込んだのがきつ</p>
--	---

	<p>かけで発掘するようになったとういうことを知りませんでした。予算がない中で国ではなく市民みんなが協力して行なったというところにとっても感動しました。先ほどこの件で質問しましたら全国的に大体そのようにして行なわれているということをお聞きしましたので私は八王子市民であることに誇りを感じました。最近個が優先されてみんなで取り組むということがなかなかないのでお子さんたちにいいアピールになるような気がします。</p> <p>小野会長 八王子はその中でもかなり盛り上がった場所です。柵先生というのはその先頭に立っていた方でまさに熱き時代の話なのでそれだけを全面的に取り上げてよかったかなと思いました。</p> <p>佐藤（栄）委員 円墳とか他の古墳との関係が分かればもっとよかったと思います。八王子だけでなく他の地域との関連性も出てくるので古代の人とのつながりにまで広げることができれば面白かったと思います。</p> <p>小野会長 ではその他の事項に移ります。こども科学館の大規模修繕についてお話いただけるということでしたので事務局からお願いします。</p> <p>牛山館長 新年度予算成立まであくまで案ということでご説明いたします。こども科学館は施設の老朽化が進んでいますのでリニューアルを図るため平成 27 年度から平成 29 年度市制 100 周年までに館の改修と展示物の入れ替えを行なっていきます。予算的には平成 27～28 年度にかけまして設計をしまして 28 年度後半から工事に入り、29 年度にリニューアルという運びとなります。それに関連して 27 年度に一部前倒してトイレの洋式化、床の修繕を行ないます。同じく 27 年度ですが企画展を実施したいと考えておりましてテーマとしては「宇宙」を取り上げたいと思っています。展示物に関しましては 26 年度中に一部着手できまして内容は科学クイズの展示物を 1 点入れる予定です。年度末のタイミングに決定したということもあり博物館協議会に報告できずにおりましたのでご報告いたします。また、新年度は JAXA（宇宙教育センター）と教育委員会の間で連携を考えております。こども科学館では現在も協力をいただき事業を行なっていますが、今度は学校教育も含めた形で 3 月末に協定を結び連携を深めていく予定です。</p>
--	---

	<p>田島館長 では資料館からご報告します。本市は平成 27 年 4 月 1 日から中核市になります。そうしますと国から八王子市文化財課に直接下りてくる業務が 2 つございます。ひとつは埋蔵文化財業務に関しまして出土品の鑑査業務があります。内容としましては出土した土器が文化財であるかどうか鑑査することで、もうひとつは国の重要文化財の現状変更に関する業務と公開関連業務の許可業務です。これは少々難しいのですがその一部の執行を任せられます。例えば現状変更について言いますと東京富士美術館に重要文化財の刀剣がありますがその型の複製を作る場合は八王子市が許可を出すこととなります。</p> <p> 続きまして事業関係ですが今回、前回、前々回の会議で藤岡、吉田両委員からお話のありました子どもをどうやって郷土資料館に来てもらえるようにするか郷土資料館の職員が危機感を持っております。</p> <p> 具体的には子どもさん向けといたしましては以前人気の高かったコーナー展「八王子の鉄道」を実施し、国鉄、京王電鉄の資料を展示します。また八王子城跡の NPO 団体のみなさんが手作りで甲冑を作っているのですが文化財担当ではその体験講座を実施してみようということでそれは先ほどお話のあった直接体験の一部になるのではないかと思います。</p> <p> 今後積極的に子どもに来館してもらうには外部に働きかけなければならぬだろうということです。まず中核市になるにあたりまして学校教育部の方に東京都から教育の研修業務が移行してきます。その業務を利用して来年度 4 月から八王子市に配属される新任教員のみなさんを対象に八王子市の文化財、郷土資料館の研修会を行ないます。これは八王子の子どもたちに教えるにはまず先生方に八王子のことを知ってもらうことが大事だろうということでカリキュラムの中に入れていただきましてその中でこちら側でバスを用意して学芸員が八王子城跡、郷土資料館について資料を見ながら解説していこうと考えています。このような研修を利用して少しずつ八王子の歴史、文化財について教員の方々に知っていただく予定です。</p> <p> もうひとつは小・中学校に対してですが先ほどもありま</p>
--	---

	<p>した直接体験の具体案としまして実物の土器・石器を貸し出し、授業の教材として利用してもらおうという取組を始めます。これをきっかけにしまして郷土資料館にはもっと深い資料があることを発信していきます。子どもに来てもらうためにまず学校に発信していくという手法をとってみたいと思います。これによって来年度どれくらい子どもが増えていくかを分析しながら 28 年度以降の事業展開を考えていきたいと思っております。このような考えをもとに実行に向けて取り組んでまいります。予算的にはそれほどかからないものですが、直接連携して八王子の価値を知っていただきます。それによって八王子市内の子どもさんが社会、あるいは歴史の勉強に興味を持ってもらい結果学力の向上に向かってくれればという思いもございませう。また、八王子城跡で出土したレースガラスの展示用復元品を今年度作成しましたので持参いたしました。新年度から郷土資料館及び八王子城跡ガイダンス施設で展示しようと思っております。当時の手法、材料を分析した上で作成しております。後ほどみなさんにご覧いただきたいと思っております。</p> <p>小野会長 今までの実績が実ってよいよこれから本格的に動き出すと思っております。非常に楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では他にないようでしたら平成 26 年度第 4 回八王子市博物館協議会を終了いたします。どうも有難うございました。</p>
--	---

--	--